活動報告

再履修者を対象とした初年次教育に関する授業報告

小堀　裕子*，齋藤　山人，山本　守和
日本大学芸術学部

Class report on first-year education courses for repeater

Yuko KOBORI, Yamato SAITO, Morikazu YAMAMOTO
College of Art, Nihon University

In this paper we report the practice of a first-year course for repeating students. Since the course was designed specifically for repeaters, we considered that we could not expect students' regular attendance or active participation if we repeated the same topics and lecture style of the previous academic year. Therefore, the teachers examined themes and class style so that we could maintain students' attendance and participation. Themes for each class were selected from topical news and topics of interest to students.

According to the questionnaire, the overall evaluation of the course was positive, with 64% of the students saying the course was good and 32% saying fair to good. Overall the theme selection received a positive evaluation. In particular, students gave the highest evaluation to the class on manga. We consider it is because the theme was based on a topic that is familiar to students so they could develop a logical and academic discussion of it.

キーワード：初年次教育，再履修者，授業改善

Keywords:
First-Year Experience, Repeater, Class Improvement

1．はじめに

本稿は，再履修者向けの全学共通初年次科目（以下「初年次教育科目」）に対する取り組みについての報告である。

日本大学芸術学部では，2021年度まで必修科目として，初年次教育科目を開講していた。しかし，2022年度よりカリキュラム編成の見直しに伴い，履修形態が選択科目に変更となった。そのため，2021年度以前入学者のうち，単位未修得者を対象とした初年次教育科目を新たに開講するに至った。2021年度の初年次教育科目では，専門の８学科の担当教員が各々の専門分野から設定されたテーマに基づいて，オンライン上で６－７名程度のグループを作成し，ディスカッションを行う授業方法を採用していた。したがって，学生には積極的な講義への参加が求められていた。しかし，新たに開講した初年次教育科目の主な受講者は，前年度までに，単位を習得できなかった学生である。そのため，従来と同様の講義テーマ・授業の方法では，学生の意欲的な参加が難しいと考えられた。そこで，より学生が興味をもって講義に参加できるような

*E-mail: kobori.yuko@nihon-u.ac.jp
投稿：2022年9月30日　　受理：2022年12月13日

テーマ選定と授業の方法について検討を行った。

初年次教育に関する報告・論文は枚挙にいとまがないが，その中でも再履修者に着目した報告は数が少ない状況である（例えば南 2014。情報教育に関する報告としては笠見 2008，小川・新井 2011 などが挙げられる）。本報告は，再履修者向けの初年次教育科目に関する講義実践例を示すことで，今後の初年次教育科目における授業改善に寄与することを目的とする。

以下，まず，本講義の概要及び講義準備に関して着目した点について述べる。次に，本講義を受講した学生へのアンケート調査の分析結果を示す。

２．再履修者を対象とした初年次教育科目について

２．１．講義の概要

本稿で対象としている講義は，2022 年 5 月 21 日～ 7 月 9 日までの土曜日，1・2 時限（9：00 ～ 12：10）に開講した「自主創造の基礎 1」（以下「本講義」）である。全 15 回の授業は，全て Zoom を用いたオンライン講義で行った。基本的な講義のタイムスケジュールは，**図 1** である。なお，テーマの内容によっては，個人ワークの時間を調整した。

従前の初年次教育科目は，学生同士が積極的に発言をすることを前提とした講義がなされていたが，本講義で対象とする学生は必ずしも人前で話すことが得意ではない可能性があると考えた。そこで，本講義の進行としては，基本的に教員が司会役を務め，テーマに関する発言を学生に求めた。この発言は，Zoom 上での声を出した発言のみに限定するのではなく，チャットや Google フォームなどを活用することで，コミュニケーションが苦手な学生にも配慮をした。そして，テーマに対する学生からの意見を収集した後，その意

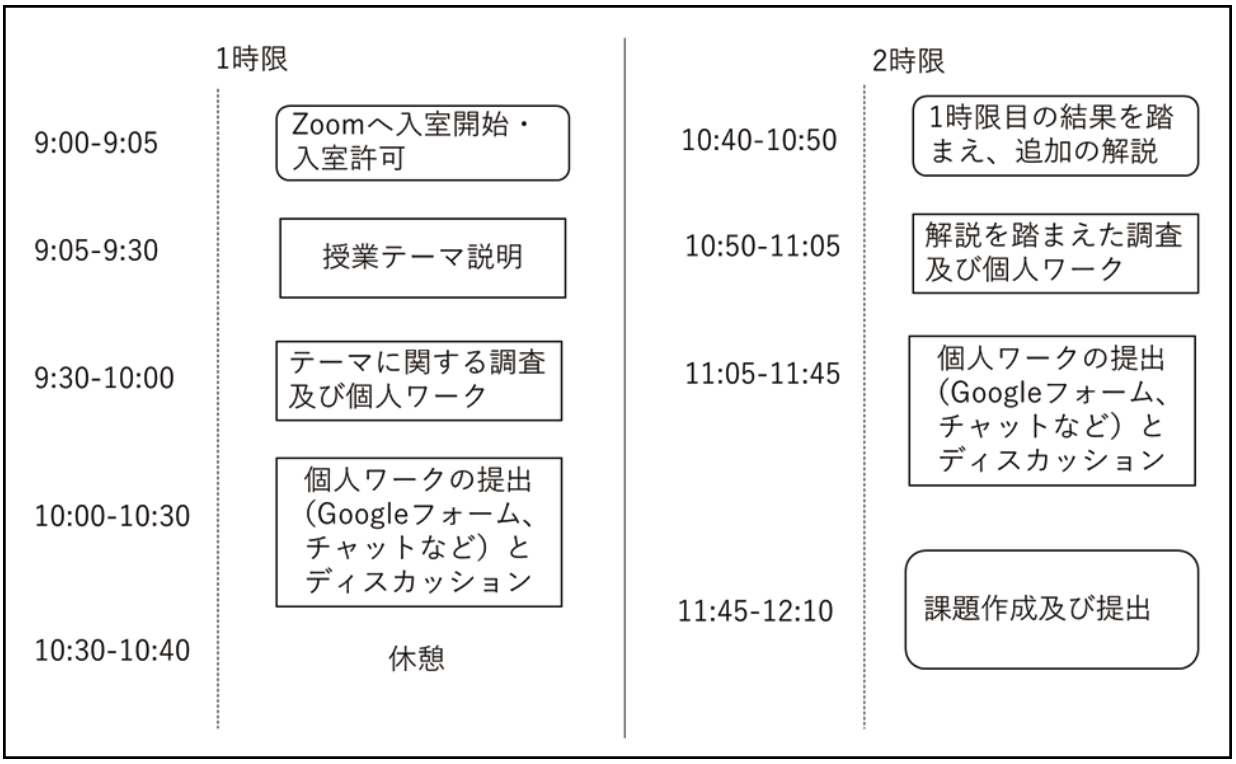


図１　基本的な講義タイムスケジュール

見に対して，教員が新たな情報を付加して説明し，議論を深めるように進行した。

２．２．講義テーマの設定

各回の講義テーマについても再履修者向けという点を考慮し，より議論に参加しやすい環境となるよう，検討を行った。従前の初年次教育科目では，芸術学部の各学科に関連する講義テーマを設定した。しかしながら，文学，映画，写真など多岐にわたるテーマ設定であったため，結果として，範囲が広汎になってしまい，一部の学生にとっては必ずしも取り組みやすいテーマとは言えなかったと考えられる。

以上を踏まえて，新たに講義テーマを検討するにあたっては，芸術分野に限定せず，話題性のある内容や学生が身近に感じられるように設定した。これにより，学生が授業に対して興味を持ち，より積極的に講義に参加できると考えた。各回の講義テーマは**表１**に示したとおりである。

また，講義で使用する教材やソフトについては，受講者数が少なく，操作に対して教員のサポートが可能であることから，動画の視聴やGoogleのマイマップなど，Zoomに付随される機能だけでなく，各テーマにおいて必要となる教材を，適宜使用した。

表１　各回の講義テーマ

講義回	開講日	授業テーマ
1回目	5月21日	授業ガイダンス及び情報検索について
2回目	5月28日	「推し」を論理的？に紹介してみる
3回目	6月4日	「人への伝え方」-論点整理（主に裁判の視点から）
4回目	6月11日	未来都市の形を考える
5回目	6月18日	災害について考える（東日本大震災を踏まえて）
6回目	6月25日	「正義」とは？（某漫画・アニメから考えてみる）
7回目	7月2日	メタバースについて考える（今、未来は？）
8回目	7月9日	振り返り

＊）最終回（8回目）を除き、1，2時限の講義である。

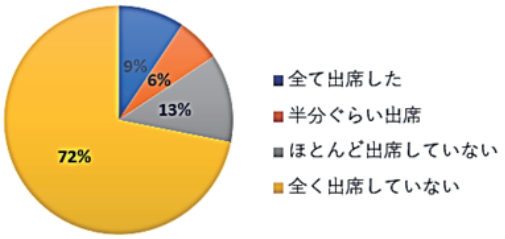
３．アンケート実施及び概要

３．１．初回講義時のアンケートについて

初回の講義の際，昨年度の講義に関するアンケート調査を行った。また，8回目の講義において，本講義に関する授業アンケートを実施した。**図２**が昨年度の講義に関するアンケートの結果である。出席状況については，“全て出席した”9%である一方，“全く出席していない”72%であり，ほとんどの学生が欠席過多によって，単位を取得できなかった状況が確認できる。また，“自主創造の基礎１を学ぶ理由の理解度”に関する質問では，“よく理解できた”16%，“全く理解できなかった”69%であったことから，初年次教育科目を受講する意義に対する理解が低いことも，出席率に影響を与えたと考えられる。講義に対する興味や関心については，“そう思う”16%，“どちらかといえばそう思う”3%であり，“あまりそう思わない”3%，“そ

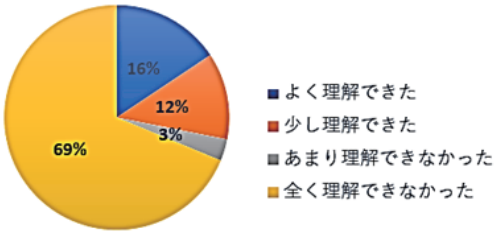
質問１：昨年度以前に、自主創造の基礎１の出席状況は？

	人数	割合(%)
全て出席した	3	9%
半分ぐらい出席	2	6%
ほとんど出席していない	4	13%
全く出席していない	23	72%
合計	32	100%



質問２：以前受講した自主創造の基礎1の学ぶ理由は理解できましたか

	人数	割合(%)
よく理解できた	5	16%
少し理解できた	4	13%
あまり理解できなかった	1	3%
全く理解できなかった	22	69%
合計	32	100%



質問３：以前受講した自主創造の基礎Ｉの内容は、興味や関心が持てるものでしたか？

	人数	割合(%)
そう思う	5	16%
どちらかといえばそう思う	1	3%
どちらとも言えない	12	38%
あまりそう思わない	1	3%
そうは思わない	13	41%
合計	32	100%

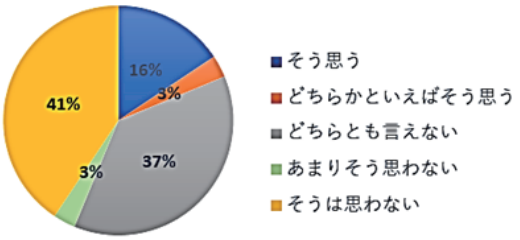


図２　昨年度の講義に関するアンケート調査

うは思わない”41%であり，前年度の講義に対する興味が持てなかったことが一因と考えられる。

以上より，再履修に至った理由としては，当初より授業に対する興味・関心が低く，そのことが授業参加度に影響したためと推察される。

３．２．講義後アンケートの結果

講義最終回に，各回の講義テーマに関する評価アンケートを行った。その結果が，**図３**である。講義に関して総合評価としては，“良かった”64%，“まあまあ良かった”32%であった。また，“内容は興味や関心が持てるものでしたか”の質問に対しては，“そう思う”48%，“どちらかといえばそう思う”44%であった。全体的な評価として，今回の講義内容は肯定的評価を得ることができたと考えられる。しかし，本講座の時間割登録者数は51名である一方で，最終日のアンケートの回答者は25名となっており，最終回の出席者は約50%である。再履修者ということを考え，講義開始前から，講義参加に関する呼びかけなどを行ったが，全く講義に出席しなかった学生も８名存在している。よって，講義に関する改善だけでなく，開講以前の段階で，何らかの準備や学生に対する働きかけが必要だと考えられる。

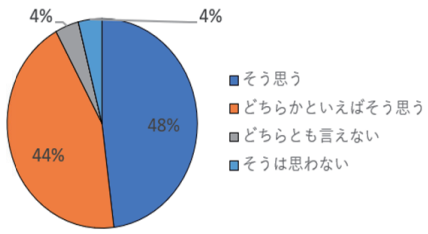
ただし，各回のテーマについては，全体的に見ると，学生にとって興味ある設定がなされたものと思われ

質問１：今回の授業に関する総合的な評価

	人数	割合(%)
良かった	16	64%
まあまあ良かった	8	32%
普通	1	4%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
合計	25	100%

質問２：今回、受講した自主創造の基礎１の内容は興味や関心が持てるものでしたか。

	人数	割合(%)
そう思う	12	48%
どちらかといえばそう思う	11	44%
どちらとも言えない	1	4%
どちらかといえばそう思わない	0	0%
そうは思わない	1	4%
合計	25	100%



質問３：各授業テーマについて、興味や関心が持てたか評価してください。

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
持てた	11	12	9	9	12	16	11
少し持てた	6	6	6	8	6	5	7
普通	7	4	5	7	6	3	5
あまり持てない	1	2	5	1	1	1	2
全く持てない	0	1	0	0	0	0	0

（＊）人数

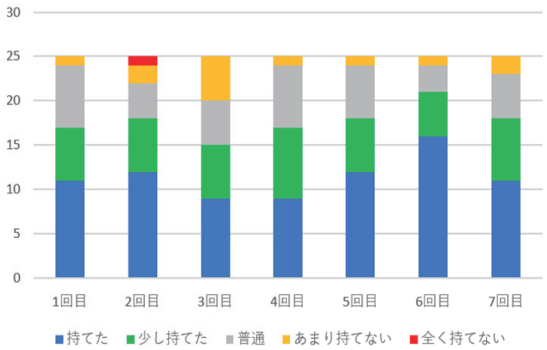


図３　本年度の講義に関するアンケート調査

る。各回の比較では，第６回のテーマが最も評価が高く，“興味が持てた”“少し持てた”を合わせた肯定的評価が21名，次いで，２回目と５回目のテーマの評価が高く，各18名であった。評価が最も高かった，第６回目のテーマは，漫画のストーリーを題材にして，主人公の行動などを，実際の法令に照らし合わせたときの正当性や「正義」の語について議論したものである。法的問題や「正義」という漠然とした観念について考えるという難しいテーマであると考えられるが，漫画と関連させることで，興味あるテーマとして考えることがしやすかったと推察される。次に評価の高かった第２回目は,「推し」という言葉を,論理的に考え,単なる「好き」と何が違うのかなどを議論したものであり，第６回目は，東日本大震災後の岩手県大槌町の状況調査動画を提示し，震災に対する考え方を議論したものである。一見，内容が大きく異なるようなものであるが，いずれも，学生にとって身近な話題を，論理的，学術的に捉えて，テーマとしたことが，良い評価を得られたと思われる。

一方，今回設定した中で相対的に評価が低かったのは，３回目の“「人への伝え方」―論点整理（主に裁判の視点から）”である。講義としては，他のものと同様の資料を用いて実施したが，実際の判例などの解説を行うなど，専門用語が多く，やや取り扱う内容としては難解であったと推察される。この点については，評価の高かったテーマのように，判例についても，芸術学部の学生にとって身近な事案と関連付けたものをとりあげ，その事案に対する議論展開をするなどの改善が必要であると考える。

全体としては，どの回も評価が高かったことから，学生の関心に沿ったテーマ設定という点では，昨年度に比べて，改善されたと思われる。

講義についての感想などに関する自由回答の結果が，**表２**及び**表３**である。自由回答については，形態素解析により，出現頻度が高い単語の集計を行った。

抽出した品詞は，名詞，動詞，形容詞である。その中から，出現頻度が比較的高いものについて集計した。集計結果をみると，“テーマ，講義，講義，先生，内容，楽しかった，よかった”などの出現頻度が高かった。また，実際のデータを確認すると，No.3や12など，肯定的な意見を複数確認できることから，興味を

表２　自由回答による回答

No.	自由回答の記述
1	土曜の朝はしんどい
2	先生方のテーマ選定に試行錯誤を感じて、頑張ってるなーと他人事ながら感じました
3	メインで専攻して学んでいる内容とはやや離れた分野での学びになるので、新鮮でかつ有益な情報が得られてとてもよかった。
4	現在の社会問題に対しての視野が広がった
5	自分を見つめ直すきっかけになる授業もあり人生の勉強になる講義になりました
6	メタバースや近代の最先端に触れる講義は、私たちにとって重要な内容だと考えているので興味を持ちました。
7	全体的に面白い内容で楽しく講義をうけることができました。
8	ありがとうございました
9	一年の授業よりわかりやすくて楽しかったです。ありがとうございました。
10	おもしろいと思う、難しい内容もあるど思います。
11	普段はあまり考えないけど身近なテーマばかりで、新たな発見ができたと思います。毎回違うテーマを学べるのが楽しかったです。特にミニマップが面白かったです。
12	自分だけでは思いつかないようなテーマで学ぶことができて、色んな分野に興味を持ち、知ることは有意義なことであるとわかりました。芸術分野のことだけでなく、色々なことを学びたいと思いました。
13	日常すぎて今まで考えないようなことまで考えることができたので楽しかった。
14	例年の授業形態よりもとっつきやすくて楽しかった。 先生方も三人いらっしゃることで分野の異なる方面からのお話を聞くことができて興味深かった。 また、グループワークがなかったことでそれにまつわるストレスがなかったことが本当に気が楽でよかった。
15	自主創造とは何をする授業なのだろうと、シラバスを読んでもいまいち掴めずにいたのですが、それぞれ違う分野の3人の先生方が毎週テーマごとに話し合っている様子をみて、良い意味で授業感を感じず、とても入り込みやすい講義でした。 また普段普通に生活していたら気にもしないようなことを振り返って考えてみたり、他の生徒の意見を聞けたりと、多くの気づきを得るきっかけにもなりました。
16	ちょっと寝たりしてすみませんでした！楽しかったです！
17	自主創造？と思っていたが、先生が3人いらっしゃったこともあり、ラジオを聞いてる感覚で楽しめた。勉強にもなった。
18	今年の講義は色んなテーマについて考えてみる時間ができてけっこう良かったと思います。すこし残念なのは自主創造と言えば学生同士で話し合うと言うのが特徴だったんですが、それができなかったことです。お疲れ様でした。ありがとうございます。
19	いろんな考えに触れられよかった
20	先生方が寄り添ってくれている感じがしてよかったです。
21	特になし
22	通常では学ぶことの出来ない範囲から様々な視野から学べてよかっま
23	よかった
24	前年と比べてとても面白かったです
25	受けやすかった。

もって講義をうけることができた学生が多数に上ったと考えられる。一方で，“いまいち，難しい”など否定的なコメントや，No.16 や 21 など，必ずしも積極的に講義に参加できていない学生も存在していた。特に，今回は，再履修者ということを考慮し，教員が受講者からのコメントを取りまとめる形で，ディスカッション形式の講義を行っていたが，学生同士の意見交換が必要であるという No.18 の意見がある一方で，No.14 学生のみのグループワークがなかったことを肯定的に捉える意見もあった。ディスカッションのあり方については，今後，十分な検討が必要であるといえる。授業テーマについては No.11 をみると，学生の専攻に関連しないテーマであっても，より身近なテーマであれば，興味をもって取り組むことが可能であると思われる。

表３　形態素解析による単語抽出

言語	頻度	品詞	言語	頻度	品詞
テーマ	6	名詞	でき	2	動詞
講義	5	名詞	できた	2	動詞
授業	5	名詞	なかった	2	形容詞
先生	5	名詞	なり	2	動詞
分野	5	名詞	わかり	2	動詞
楽しかった	5	形容詞	違う	2	動詞
思い	5	動詞	学び	2	動詞
内容	4	名詞	学ぶ	2	動詞
よかった	4	形容詞	興味	2	名詞
自主	3	名詞	視野	2	名詞
創造	3	名詞	持ち	2	動詞
して	3	動詞	自分	2	名詞
できて	3	動詞	色	2	名詞
なる	3	動詞	人	2	名詞
感じ	3	動詞	普段	2	名詞
考え	3	動詞	勉強	2	名詞
考えて	3	動詞	面白かった	2	形容詞
あり	2	動詞	話し	2	動詞
きっかけ	2	名詞			

４．まとめ

今回は対象となる受講生が再履修者のため，限定的な結果であるが，アンケート結果をみると，概ね授業改善ははかられたと思われる。各講義の授業テーマについては，必ずしも学生の専攻分野に配慮する必要はなく，身近なテーマや話題になっている物事について取り上げる方が，より積極的に参加できるのではないかと考えられる。ただし，従来採用していたディスカッションによる学生同士の積極的な意見交換を希望する学生もいれば，コミュニケーションが苦手であるために，学生のみのグループワークがないことを肯定的に捉える学生もいる。そのため，授業の進行方法については，人とのかかわり合いが苦手な学生に配慮しつつ，初年次教育で重要となる大学での能動的な学びや，大学卒業後も必要となるコミュニケーションスキルを身につけられるよう，さらなる検討と改善が必要であると考えられる。

参考文献

南愛（2014),「初年次教育としての「自立と体験 1」再履修　授業実施報告」,『明星大学明星教育センター研究紀要』第 4 号, 97-100 頁.

笠見直子（2008),「情報リテラシー授業の再履修クラスにおけるニーズ分析と学習意欲向上をめざした「3I」導入の試み」『日本教育情報学会第 24 回大会　年会論文集』, 242-243 頁.

小川真里江・新井正一（2011),「情報系基礎教育科目での再履修者向け授業の試み：3D 仮想空間をツールとして活用した協調学習」,『大学 ICT 推進協議会 2011 年度年次大会論文集』, 496-498 頁.

永野峻祐・小根山裕之・大口敬・鹿田成則（2012),「形態素解析を用いたアンケート調査自由記述欄の分析手法に関する研究―路面電車利用意識調査データを用いたケーススタディー」,『土木学会論文集 D3（土木計画学)』第 68 巻 5 号, I_973-I_981 頁.

松河秀哉・大山牧子・根岸千悠・新居佳子・岩﨑千晶・堀田博史（2018),「トピックモデルを用いた授業評価アンケートの自由記述の分析」,『日本教育工学会論文誌』第 41 巻 3 号, 233-244 頁.